
QA25 空間放射線量率は今も福島原発事故が起こる前の数値まで下がっていないのに、事故前と同じ生活をしていいのですか

2011年3月には福島第一原子力発電所から放射性物質の放出が多く有り、気流に乗って流れてきていました。そのため一部の地域では窓を閉め、換気扇を止めるように指導がなされてきました。2011年6月頃には、原発からの大気中への新たな放射性物質の放出はごく微量となっています。2011年9月8日の東京電力(株)の発表によると、2011年7月下旬から2011年8月上旬の2週間の放出は事故直後の2011年3月15日に比べ、1000万分の一程度だそうです。また、東京都健康安全研究センターは、2011年6月1日から2011年9月25日までの約4か月の間で、2011年8月5日(セシウム134と137合計で10.4Bq/m²)および2011年8月6日(セシウム134と137合計で8.4Bq/m²)以外では、ヨウ素とセシウムは不検出と発表しています。

現在の空間線量率が高い原因は、空気中に放射性物質が多いためではなく、地面などに沈着した放射性セシウムが放射線を出しているからです。このセシウムは土に強く吸着されているため、再び空気中に漂い出てくることはほとんどありません。例えば、学校の校庭や幼稚園の園庭などで、風が強い日に砂埃が舞い上がって、それを吸入したとしても、呼吸からの内部被ばく線量は総被ばく量(外部、内部両方)の2～3%程度と言われていきます。つまり、大部分の被ばく要因は地面などからの外部被ばくですので、内部被ばくを心配して、夏に家を閉め切りにしたり、長袖や長ズボンを着たりする必要はありません。

出典：放射線医学総合研究所ウェブサイト「放射線被ばくに関するQ&A」より作成

出典の公開日：2012年4月13日

本資料への収録日：2012年12月25日

改訂日：2015年3月31日